

今は引つ越して居ないが、近所付き合ひをしていた食堂があった。旦那さんは自動車販売会社に勤めている、太った格幅の良い人で何時もニコニコ人懐っこしい方だ。自動車販売では県下有数の人らしい。

約二十年前、長男が結婚、教会での結婚式、会費制の披露宴で、私達、親は殆どお金を使わなかった。市営住宅で生活を始めたが親として何かしてやりたくなかった。

妻と相談し自動車を買つてやることにした。前出の自動車屋さんにお付き合ひにと話しを持ちかけた。代金は今の家を建てる時銀行から借りた残金に含めて借り、ニッサンの八人乗りのワゴン車を購入し、長男に連絡したら間を置かず取りに来た。その時の嬉しそうな顔が今でも思い出される。

その人の奥さんが題名の人である。奥さん一人で食堂を経営していたが、着物好きも有名だった。自宅兼食堂は相当古い、家を手入れせず、着物買いに明け暮れて居るようだった。

お茶のみに行つたとき「着物を少し売つたら大きな家が建つんではないの」と冗談言つたら「ホントだね」の返事が返つてきた。なかなかの美人だがお人好しで、着物屋さんを勧められるとドン買つてしまう、古い家の中は着物でイッパイであった。

奥さんは大の酒好きで有名である、旦那さんは体を見れば酒豪家に見えるが殆ど飲まない。チョコ、一・二杯で真っ赤になる。それに引き替え奥さんは、旦那さんの分もと思つているのか、相当な酒豪家である。

余所に飲みに行つた時、ウイスキー、だるま一本を一人で全量飲み干し、顔色を変えず、ふらつきもせず平然と帰宅する。

飲めない旦那さんは怒りもせず、迎いれるそつだ。

二人を並べて見るとき、正反対に見えるから不思議だ。